

シラバス

講座名	応用古典	学年	3年
単位数	2 単位	留意点	卒業後の進路として文系学部への進学を考えている場合は、選択することが望ましい。
選択・必修	選択履修		
教科書	古典文学選 古典 A（教育出版）		
副教材等	国語便覧・古語辞典・漢和辞典		

科目の目標

古典としての古文と漢文、古典に関連する文章を読むことによって、わが国の伝統と文化に対する理解を深め、生涯にわたって古典に親しむ態度を育てる。

時数		単元名・単元の目標	教材・作者	主な学習活動・評価の規準と方法
1	4月	一 歌物語 ○『大和物語』を読み、話の展開をたどりながら、和歌にこめられた登場人物の心情を読み取り、鑑賞することで、歌物語の世界にふれる。	大和物語 姨捨山 安積山	1 歌物語の特色や主な作品に関する文学史的な基礎知識を整理し、文学史の流れの中に位置づける。 2 通過儀礼や結婚に関する古典常識について整理する。 3 和歌の修辞について簡単に整理する。 4 各章段を、話の展開と登場人物の心情に注意して読み取り、歌の鑑賞に結びつける。 5 動詞の活用について、解釈と関連させながら暗記すべきことを確認する。 ◇読 正確な読解をもとにして、話の展開や登場人物の心情を理解している。（音読・発言・ノート・定期考査など） ◇知 和歌の修辞の理解、および、歌物語の知識を読解に結びつけている。（発言・定期考査など）
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				
9	5月	五 歴史物語 ○『大鏡』を読み、描かれたエピソードや、登場人物のさまざまな人間像を読み取り、ものの見方・感じ方・考え方について理解を深めるとともに、そのエピソードや人物について語る語り手のスタンスを正しく捉えて鑑賞する。	大鏡 道真左遷 兼通と兼家の確執 若き日の道長 道長と隆家	1 『大鏡』について、紀伝体・語りという観点を中心に文学史的な基礎知識を整理する。 2 各章段を登場人物の行動に注意して読み取り、その背景にある心情を考えながら人物像についてまとめる。 3 語り手が、その人物をどのように評価しているのか考察する。 4 他の作品や日本史学習と関連させながら、人物像を立体化する。 5 助動詞の活用表を使って基礎知識を整理し、読解と結びつける。 ◇読 正確な読解をもとにして、登場人物の行動や心情を捉えている。（発言・ノート・定期考査など） ◇知 歴史物語の特色について理解し、その知識を読解に結びつけている。（発言・ノート・定期考査など） ◇知 助動詞の理解を正確な読解に結びつけている。（ノート・発言・定期考査など）
10				
11				
12				
13				
14				
15				
16				
17	6月	六 随筆(二) ○『枕草子』を読み、作者清少納言が描いた宮廷社会の伝統と文化について読み味わい、理解を深める。	枕草子 殿などのおはしまさで後 中納言参り給ひて	1 『枕草子』と清少納言について、文学史的な基礎知識を整理する。 2 摂関政治期の貴族社会の状況や、貴族の生活・教養に関する古典常識を整理する。 3 各章段を、登場人物とその行動・発言に注意して正確に読み取り、その背後にある心情を理解する。 4 清少納言と定子との関わりを考察する。 5 文法の知識を正確な読解に結びつける。 ◇読 正確な読解をもとにして、行動や発言の背後にある心情を理解している。（発言・ノート・定期考査など） ◇知 宮廷文化や宮廷女房の存在について、文学史と関連させながら理解している。（発言・定期考査など）
18				
19				
20				
21				
22				
23				
24				
25	7月	四 三国志 ○『三国志』の英雄にまつわる話を読み、登場人物の人物像や性格を読み取るとともに、その英雄たちが織りなす世界のおもしろさにふれる。	関羽と張飛 『三国志』 諸葛孔明 『十八史略』 赤壁の戦い 『十八史略』	1 当時の時代背景と地理関係を把握する。 2 受身・使役・仮定・二重否定などの句型を理解する。 3 登場人物の性格を読み取り、それぞれの人物の特徴を把握する。 ◇知 重要な句型の意味・用法について理解を深めている。（発言・ワークシート・定期考査） ◇読 三国志の英雄について、人物像を理解している。（発言・ワークシート・定期考査）
26				
27				
28				
29				
30				
31				

32					
33	9月	三 軍記物語	平家物語 先帝入水 能登殿最期	1 『平家物語』について、文学史的な基礎知識を整理し、主な登場人物やあら筋について簡単に紹介する。	
34		○『平家物語』を読み、登場人物の行動とその背景にある心情を読み取り、武士の生き方について考える。		2 武器や馬具などについて、視聴覚教材を活用して紹介する。	
35				3 平曲（平家琵琶）などについて、視聴覚教材を活用して紹介する。	
36				4 各章段を、繰り返し音読し、それを読解に結びつける。	
37				5 登場人物の行動や心情、を読み取り、無常観に関する知識をもとにして、争乱の時代に生きた人々の姿について考察する。	
38				◇読 正確な読解をもとにして、登場人物の人物像と心情を理解し、争乱の時代に生きた男女の姿に、思いをはせている。（発言・ノート・話し合い・定期考査など）	
39				◇知 音便などの表現の特色を理解して音読している。また、それを解釈に結びつけている。（音読・定期考査など）	
40					
41	10月	三 詩文	文 桃花源記	1 「桃花源記」の内容を、構成や展開に即して的確に捉える。	
42		○陶潜の文章を読み、そこに表れた人間・社会・自然などに対する筆者の思想、考え方を理解する。		2 指示語のさす内容や接続詞の用法などを正確につかむ。	
43				3 部分否定・疑問・使役などの句型を理解する。	
44				◇知 指示語の内容や接続詞の用法を理解している。（発言・ワークシート・定期考査など）	
45				◇読 「桃花源記」の構成や内容を的確に捉えている。（発言・ワークシート・定期考査など）	
46		七 源氏物語		光源氏と紫の上 光源氏の誕生 若紫との出会い 二条院に引き取られた若紫 紫の上の死	1 『源氏物語』について、文学史的な基礎知識を整理し、マンガや視聴覚教材などを活用して、主な登場人物やあら筋について紹介する。
47		○『源氏物語』を読み、主人公光源氏の人生を、最愛の伴侶紫の上との関わりの面から読み味わうとともに、日本文学の最高傑作とも評される『源氏物語』の作品世界にふれ、古典に親しむ態度を養う。			2 各場面を、登場人物の行動や心情がどのように描かれているのかに注意して読み取る。
48					3 各場面の情景描写や和歌が、その場面の主題とどう関連するのか考察する。
49	11月		4 光源氏と紫の上の関係の変化を追跡する。		
50			5 敬語の用法を確認し、正確な読解に結びつける。		
51			◇読 各場面の状況や登場人物、また、登場人物の行動や心情について正確に捉えている。（ノート・発言・話し合い・定期考査など）		
52			◇知 『源氏物語』の特質を理解し、その知識を読解に結びつけている。また、源氏物語の魅力を人に伝えている。（発言・ノート・発表・定期考査など）		
53			◇知 敬語の用法を理解し、正確な読解に結びつけている。（発言・ノート・定期考査など）		
54					
55					
56					
57	12月	二 史記	史記 鴻門の会 項王の最期	1 司馬遷が史記を著すにいたった経緯を理解する。	
58		○史記を読解しながら、項羽と劉邦を中心とした多彩な登場人物の描写を味わうとともに、作者司馬遷の人間に対する観察眼、洞察力にふれる。		2 重要語句の意味について理解する。	
59				3 使役・反語・受身・疑問・抑揚などの句型を理解する。	
60				4 場面ごとに登場人物・構成・展開に即してあら筋を的確に把握する。	
61				5 登場人物の行動やその背景にある心理を考える。	
62				◇知 語句の意味や重要な句型について、理解を深めている。（発言・ワークシート・定期考査など）	
63				◇読 場面ごとの話の展開を的確につかんでいる。（発言・ワークシートなど）	
64		1月		八 評論	無名草子 清少納言 紫式部
65	○さまざまな評論を読み、古典文学の根底にある発想を知ること		2 『無名草子』を読み、清少納言と紫式部の人物像について考察する。		
66	で、わが国の伝統と文化について		◇読 各作品で話題になっていることを正確に読み取り、日本文学史の根底にある多様な視点について理解している。（発言・話し合い・ノート・定期考査など）		
67	理解を深める。		◇知 人物論・和歌論・物語論を支える発想法を理解している。（発言・定期考査など）		
68					
69					
70					

評価の方法

- ・授業では、毎回百人一首かるたを行う予定である。
- ・授業で行う小テストは、重要語句・語法に関するものを毎時間実施し、小テストの得点は定期考査の結果に加算する。
- ・夏休み中に、学習が遅れぎみな者に対する指名補習と、進学を希望する者を対象とした実力アップ補習（希望者）を実施する予定である。

- ・評価は、定期考査や小テスト（知識・理解）を中心に、出席状況や授業への取り組み状況（関心・意欲・態度）、発言や提言（思考・判断）などを総合的に判断して行う。
- ・定期考査は、１・２学期は中間考査と期末考査を、３学期は期末考査をそれぞれ百点満点で行う。
- ・グループ学習による発表学習については、担当教員の評価の他、生徒相互による評価も行い、担当教員が実際の評価を決める際の資料として活用する。
- ・各学習のまとめ段階では、自己評価や相互評価も活用する予定である。